

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第12週 (3/18-3/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		12週	11週	10週	9週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/18-3/24	3/11-3/17	3/4-3/10	2/25-3/3	3/11-3/17
			12週	11週	10週	9週	11週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	7 0.39	1 0.06	3 0.17	51 0.39
	咽頭結膜熱		3 0.17	7 0.39	1 0.06	1 0.06	37 0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	57 3.17	63 3.50	34 1.89	44 2.44	512 3.88
	感染性胃腸炎		88 4.89	111 6.17	106 5.89	105 5.83	649 4.92
	水痘	★◎	19 1.06	12 0.67	9 0.50	16 0.89	51 0.39
	手足口病		0 0.00	1 0.06	1 0.06	2 0.11	5 0.04
	伝染性紅斑	↓	14 0.78	26 1.44	17 0.94	12 0.67	134 1.02
	突発性発しん		14 0.78	9 0.50	9 0.50	5 0.28	50 0.38
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	8 0.06
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.11	3 0.17	0 0.00	8 0.06
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		29 1.04	37 1.37	83 2.96	168 6.00	368 1.75
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	1 0.20	3 0.60	8 0.23
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	E型肝炎	男性	60歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	50歳代	画像検査	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	男性	90歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	IGRA検査				
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	30歳代	抗体の検出
結核	女性	80歳代	IGRA検査等	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出

・第12週は、結核7件(31)、E型肝炎1件(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(3)、後天性免疫不全症候群1件(2)、梅毒1件(9)、百日咳1件(27)、風しん1件(14)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

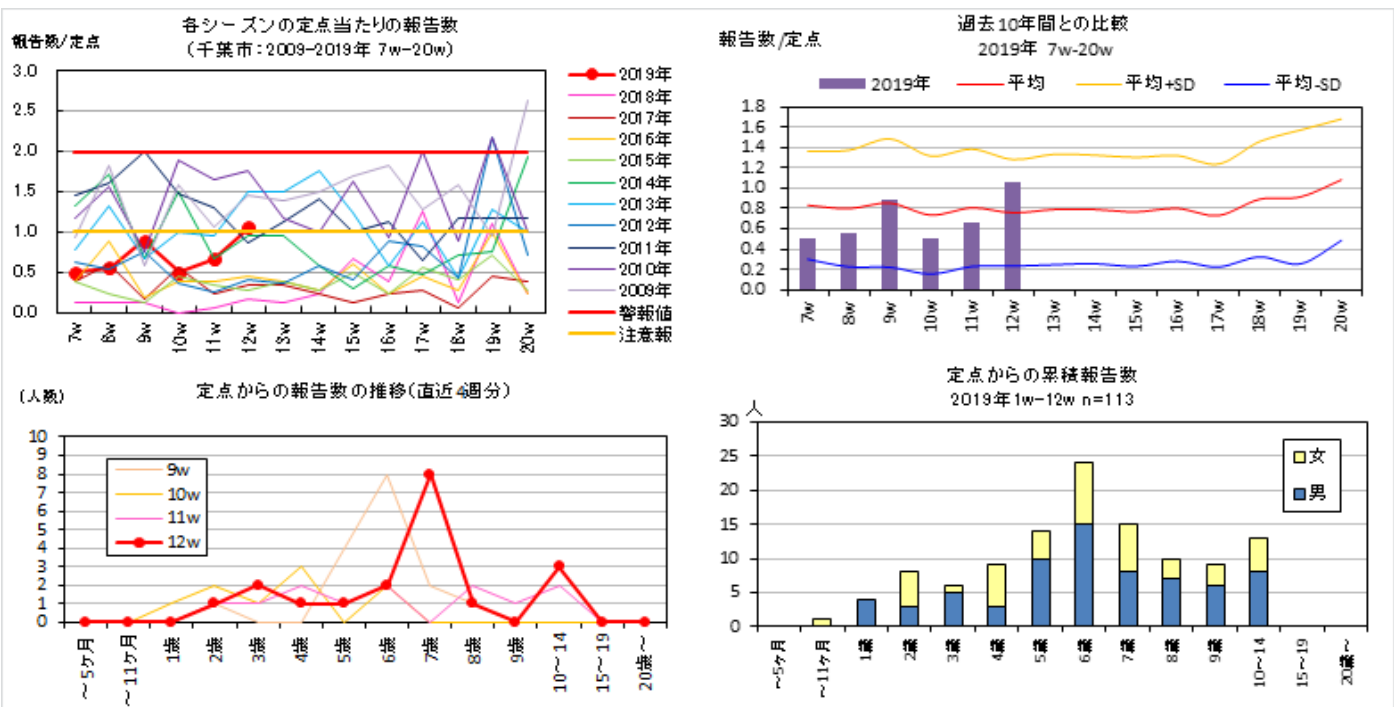
定点当たり報告数 第12週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より減少し3.17となったが、過去10年の同時期と比べると最多。
 ＜水痘＞前週より増加し1.06となり、流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多め。
 ＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.78となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

■ トピック ■

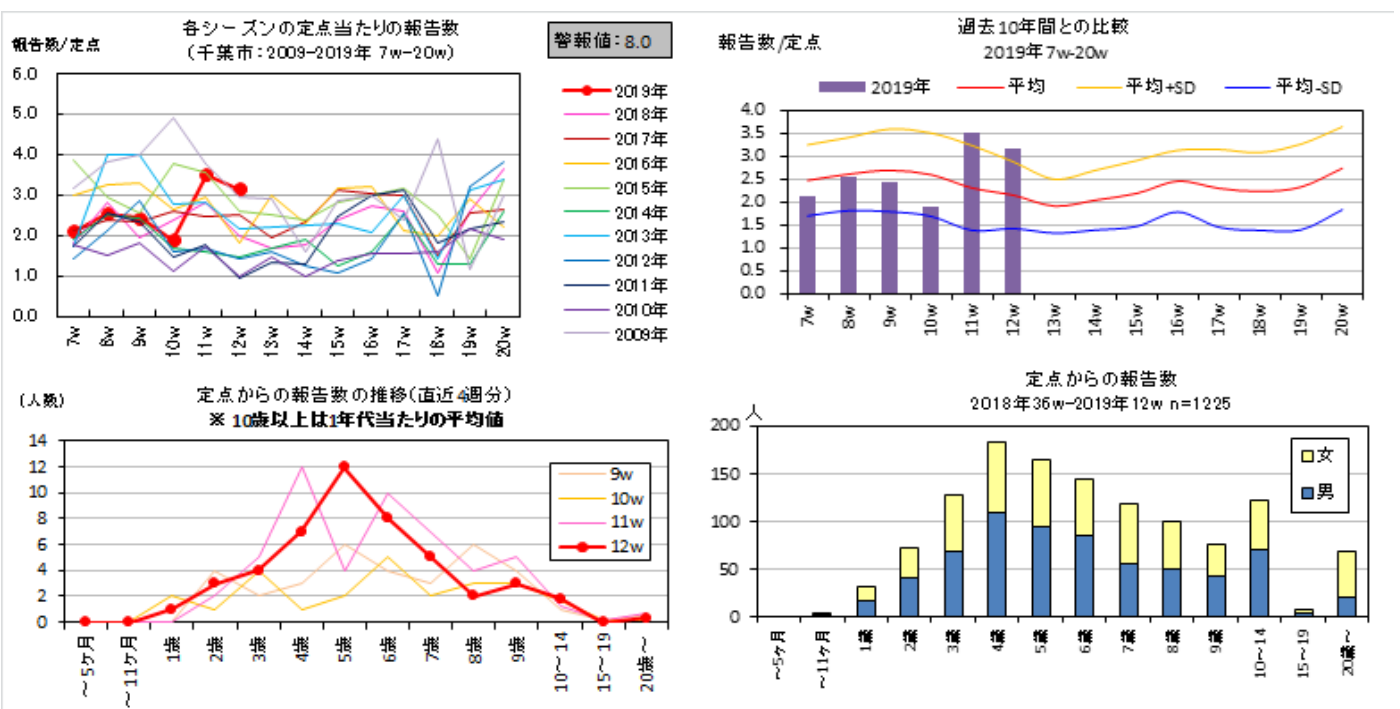
＜水痘＞

全国レベルの第11週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、鳥取県、熊本県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では前週より増加し1.06となり、流行発生注意報基準値(1.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、中央区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。その他若葉区でも流行発生警報開始基準値を上回っています。なお、これら以外の区では過去10年の同時期と比べると僅かとなっています。2019年第1週から第12週までの累積報告数は113件で、性別では男性が61.1%(69名)、女性が38.9%(44名)となっており、年齢階級別では6歳(21.2%:24名)、7歳(13.3%:15名)、5歳(12.4%:14名)の順で多くなっています。



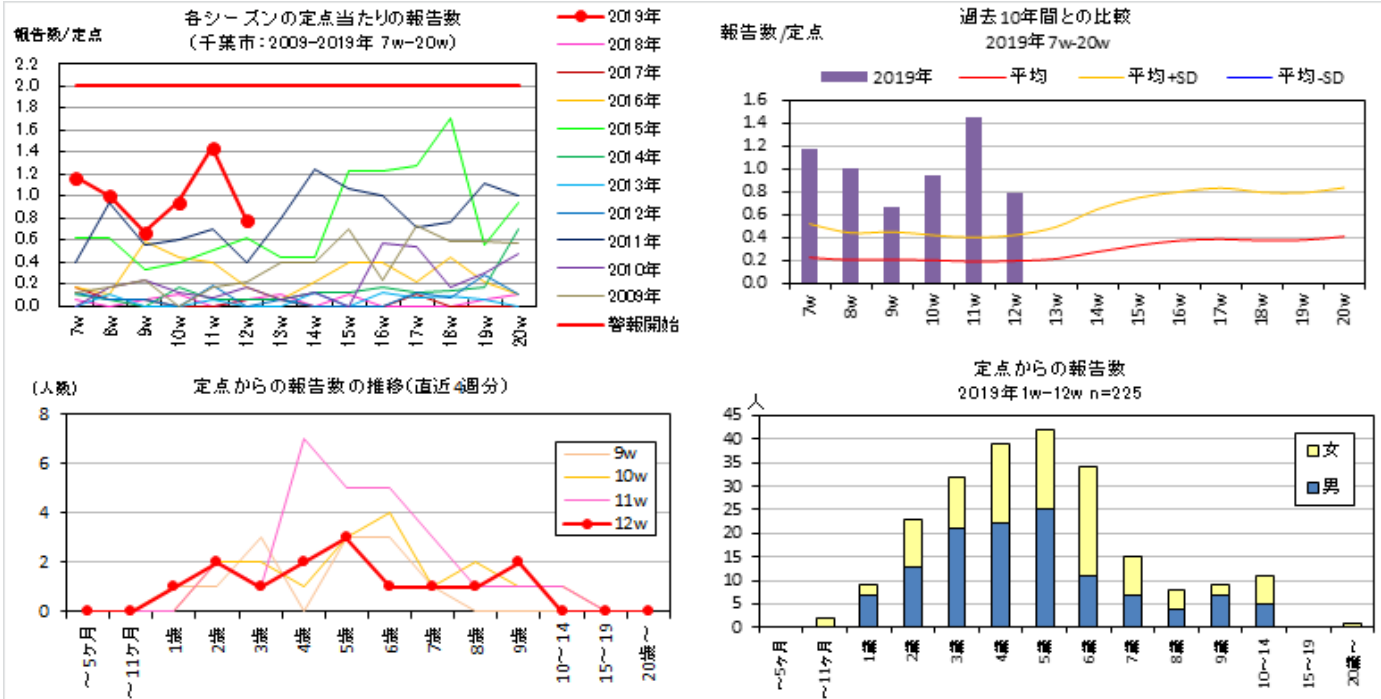
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第11週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、北海道、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第12週は前週より減少し3.17となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(10.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第12週までの累積報告数は1225件で、性別では男性が54.3%(665名)、女性が45.7%(560名)となっており、年齢階級別では4歳(15.0%:184名)、5歳(13.5%:165名)、6歳(11.8%:145名)の順で多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、石川県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となりつつも高い水準で推移しており、第12週は前週より減少し0.78となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳及び4歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第12週までの累積報告数は225件で、性別では男性が54.2%(122名)、女性が45.8%(103名)となっており、年齢階級別では5歳(18.7%:42名)、4歳(17.3%:39名)、6歳(15.1%:34名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第11週の累積報告数は937件で、昨年の同時期と比べると150倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第12週に発生報告が1件あり、2019年の累積報告数は14件となりました。性別では男性が78.6%(11名)、女性が21.4%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代(42.9%:6名)、40歳代(35.7%:5名)、50歳代(14.3%:2名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の90%以上を占めています。

